徳島県公立高等学校魅力化推進委員会

報告書

令和5年2月

徳島県公立高等学校魅力化推進委員会

目　次

はじめに

Ⅰ　特色化・魅力化の背景 …… 1

Ⅱ　特色化・魅力化の方向性 …… 1

Ⅲ　特色化・魅力化に向けた方策
　１　スクール・ポリシーの共有と浸透 …… 2
　２　学校教育活動の充実 …… 3
　３　社会に開かれた学校教育 …… 5
　４　効果的な魅力発信 …… 6

Ⅳ　取組事例
　徳島県立城北高等学校 …… 7
　徳島県立徳島北高等学校 …… 9
　徳島県立小松島高等学校 …… 11
　徳島県立那賀高等学校 …… 13
　徳島県立海部高等学校 …… 15
　徳島県立鳴門高等学校 …… 17
　徳島県立脇町高等学校 …… 19

資料
資料１　徳島県公立高等学校魅力化推進委員会設置要綱 …… 21
資料２　徳島県公立高等学校魅力化推進委員会委員一覧 …… 22

はじめに

「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」は，令和４年２月，県教育委員会に対し，公立高校の特色化・魅力化を図るための方策として，スクール・ポリシーに基づく教育活動の推進や，普通科を中心とした特色化・魅力化に向けた取組の必要性等について提言を行った。

県教育委員会では，検討会議の議論を踏まえ，実現可能なものから優先的に取り組むこととし，会議からの提言を待つことなく，令和３年度早々に，各高校の特色化・魅力化の促進を図るため，スクール・ミッションを定め，各高校はこれに基づき，スクール・ポリシーを策定するに至った。

また，令和３年度は，徳島県GIGAスクール構想のもと，高校生にも環境整備した１人１台端末の活用を開始した時期でもあり，さらに，令和４年度中には，かねてより推進してきた学校運営協議会の設置が，全ての県立学校で完了する予定である。加えて，各高校でスクール・ポリシーを反映した生徒募集ができるよう，令和５年度の入学生からを対象として入学者選抜制度の見直しを進め，その実施を控えた時期でもある。

こうした状況を踏まえ，県教育委員会は，検討会議からの提言を実効性あるものとするため，学識経験者や学校関係者からなる「徳島県公立高等学校魅力化推進委員会」を設置し，第１回推進委員会では，県教育委員会から，各学校の強みを生かしつつ，新たな仕組みも活用した魅力ある学校づくりについて検討するよう要請が行われた。

本委員会では，この要請を受け，令和４年７月から令和５年２月までの間に計４回の会議を開催し，次に示す２点について様々な立場から多角的に議論を重ねてきた。

（１）公立高等学校のスクール・ポリシーに基づく教育活動の推進方策
（２）公立高等学校の普通科を中心とした特色化・魅力化に向けた取組等

議論を進めるに当たっては，普通科を設置する７つの高等学校に協力を仰ぎ，各学校の特色づくりに向けた取組について，生徒による発表や資料を提供していただくことにより，議論に具体性を持たせるよう工夫をした。

この度，検討結果を報告書として取りまとめるに至ったので報告する。県教育委員会においては，本報告をもとに議論を進め，本県公立高等学校のより一層の特色化・魅力化に向けた，具体的な取組が実行されることを期待する。

Ⅰ　特色化・魅力化の背景

本県における中学校卒業後の高等学校（中等教育学校の後期課程，高等専門学校，特別支援学校高等部を含む。）への進学率は，令和４年３月には98.9％となっており，中学校を卒業した生徒の大部分が進学する教育機関である高等学校は，様々な背景を持つ生徒が在籍することから，期待される役割が多様化している。

本県公立高等学校の中には，既に学科の特性を活かしたり，地域と協働したりして特色ある教育活動に取り組み，卒業後の進路実績や中学３年生を対象とした進学希望調査の結果等において，その効果が現れている学校もあるが，予測困難な時代を生きる子どもたちに，未来を切り拓く力や新たな価値を創造する力を培うため，新たな仕組みも活用し，教育活動を更に充実する必要がある。

折しも，中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～」では，スクール・ミッションの再定義やスクール・ポリシーの策定，さらには「普通教育を主とする学科」の弾力化等，新時代に対応した高等学校教育の在り方が示された。

今日，生徒の能力・適性，興味・関心等が多様化するなか，高等学校は，全ての生徒の学習意欲を喚起し，また，地域振興の核としての役割も期待されていることから，県下全ての公立高等学校において，各校が求められる役割を再検討し，それを基に教育活動の不断の改善を図り，より一層，特色化・魅力化に向けた取組を推進する必要がある。

Ⅱ　特色化・魅力化の方向性

各高等学校が，これまで培ってきた取組や地域の特性等，それぞれの強みを生かしつつ，スクール・ミッション及びスクール・ポリシーや徳島県GIGAスクール構想，さらには学校運営協議会といった新たな仕組みも活用して，各学校ならではの特色や魅力をつくりあげていただくよう，しっかりと支援していくことが必要である。

各学校が，それぞれの強みを生かし，新たな仕組み*も活用して，学校教育活動の充実を図るなど，各学校ならではの特色や魅力を地域とともにつくりあげていく。

＊新たな仕組み ･･･ スクール・ミッション及びスクール・ポリシー，
徳島県GIGAスクール構想，学校運営協議会

Ⅲ　特色化・魅力化に向けた方策

１　スクール・ポリシーの共有と浸透

＜提言＞

（１）スクール・ポリシーの積極的な情報発信に努めるとともに，その見直しや学校教育活動の検討においては，教職員はもとより，生徒や保護者，地域の人々等，関係者の参画を図り，当事者意識を醸成する必要がある。

（２）スクール・ポリシーを基準に教育活動の精選と重点化を図ることにより，学校における働き方改革と指導体制の充実を推進するとともに，スクール・ポリシーについても定期的なブラッシュアップを行う必要がある。

＜考え方及び留意事項－提言（１）について－＞

○スクール・ポリシーは，掲げるだけでなく，教職員はもとより，全校生徒で共有し，浸透させることが最も重要である。

○スクール・ポリシーの策定や見直しは，全教職員をはじめとして，在籍する生徒，保護者，地域や産業界，関係団体の関係者等が参画して検討を進め，当事者意識を醸成することが大切である。

○スクール・ミッションやスクール・ポリシーが積極的に情報発信されることによって，中学生が保護者とともに自己の将来について考える契機となり，主体的な進路選択を行うことができる。

＜考え方及び留意事項－提言（２）について－＞

○スクール・ポリシーを基準として，全ての学校教育活動を見つめ直し，精選と重点化が図られることを期待する。

○小松島高校が取り組んだ行事の精選や校内組織のスリム化等のように，働き方改革を推進することによって，教員が子どもと向き合う時間を確保でき，それが手厚い指導や教育活動の充実につながると考えられる。

○スクール・ポリシーは，柔軟なものと考え，定期的にブラッシュアップする必要がある。「徳島教育大綱」及び「徳島県教育振興計画」が改定される令和５年度は，スクール・ポリシーを見直す絶好の機会であり，各高校が検討組織を設け，教育活動の新たな指針を定めてほしい。

２　学校教育活動の充実

＜提言＞

（３）総合的な探究の時間等において，地域社会が有する魅力や課題に着目するなど，地域を学びの場とした探究活動を推進し，幅広い人たちとの世代を超えた交流を促進することで，社会参画力の育成を期待する。

（４）県や国の事業等の積極的な活用や，ICTのより一層の効果的な活用は，特色づくりに向けた有効な手段である。

（５）普通科に，社会への接続を考慮して，例えば，将来の職業を意識した実践的な学びを深められるコースを設置したり，文理を融合した柔軟な教育課程を編成したりするなど，生徒や学校，地域の実態に応じた学習活動の展開を期待する。

＜考え方及び留意事項－提言（３）について－＞

○徳島県の高校では，全ての生徒が総合的な探究の時間を活用し，自らの興味・関心に基づいて地域や社会の課題解決に向けた探究活動に取り組んでおり，こうした学習の積み重ねが，学校の特色や魅力につながると考えられる。

○総合的な探究の時間における地元でのフィールドワークや，幅広い分野の人たちとの世代を超えた交流等の活動を通して，地域に目を向け，魅力と課題を知り，構成員として社会に参画しようとする力や郷土を愛する心を育んでほしい。

○自ら課題を発見し，その解決に向けて探究する活動や，他者との協働的な学びに対し，積極的になれない生徒の存在も想定されることから，事象に着目する観点や学びの手順を示したり，協働的に活動する場面を設定したりするなど，授業を工夫してほしい。

＜考え方及び留意事項－提言（４）について－＞

○スーパーオンリーワンハイスクール事業（令和４年度 徳島北高校他）やスーパーサイエンスハイスクール事業（令和４年度 脇町高校他）の指定を受けて教育活動に取り組んだり，エシカル甲子園（令和４年度 那賀高校他）に出場し日頃の取組の成果を発表したりするなど，県や国の事業を活用することは，特色づくりに向けた有効な手段である。

○令和４年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）総合開会式の公開演技で披露された，全国レベルの指導を受けた県内の生徒たちの踊りや演奏は圧巻であった。このようなレベルの高い指導を受けられる機会を創出することも魅力化には有効である。

○徳島県では，持続可能な社会を構築するため，SDGsの理念に基づく各種の取組を全国に先んじて進めている。城北高校や海部高校がSDGsの学習や体験活動を取り入れているように，全ての高校が県と歩調を合わせてSDGsの視点を取り入れた教育活動を推進すると，全国的に見ても大きな特徴になると考えられる。

○小規模校における遠隔授業の活用や本校・分校間の連携といった教育活動の充実，また，オンラインによる学校説明会の開催といった魅力発信等，学校教育活動の充実や高校の魅力発信に係るICTの有効な活用方策について，好事例を共有すべきである。

＜考え方及び留意事項－提言（５）について－＞

○普通科は，一般的に大学等への進学を見据えた学習活動の展開が期待されているが，次の学校段階への進学実績だけではない，実社会で必要とされる資質や能力を身につける特徴ある取組も求められている。

○普通科では，生徒に２年次から文理選択を求める場合が多い。しかし，社会科学では，統計等，数学の知識が必要とされ，また，理系の学問でも英語が必要とされる社会の実情を踏まえ，文理融合の柔軟な教育課程の編成をする学校が現れると，高校の差別化を図ることができる。

○県内の専門学科や総合学科で学ぶ生徒が，日頃の学習成果を紹介する徳島県高校生産業教育展のように，普通科で学ぶ生徒が一堂に会して発表したり交流したりする場を設けてはどうか。

○農・工・商といった職業教育を主とする専門学科に対し，教育内容が画一的になりがちな普通科においても，生徒や学校，地域の実態に応じ，例えば，将来の職業を意識した実践的な学びを深められるコースを設置したり，単位制を活かして特色ある学校設定科目を設けたりするなどの工夫を求めたい。

ｽｰﾊﾟｰｵﾝﾘｰﾜﾝﾊｲｽｸｰﾙ事業

エシカル甲子園

インターハイ総合開会式

３　社会に開かれた学校教育

＜提言＞

（６）学校と社会の多様な主体との連携は，生徒の意識や行動に好ましい変容をもたらすことが期待され，その教育効果をより一層高めるために，学校と地域や社会とをつなぐコーディネート機能を充実させる必要がある。

（７）学校運営協議会について，活用事例の情報共有等を行うことで，その充実を図り，特色・魅力ある教育活動を持続させるための組織的な連携協力体制を構築する必要がある。

＜考え方及び留意事項－提言（６）について－＞

○鳴門高校が鳴門教育大学と連携を深めているように，「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて，各高校が，地元企業や行政機関，高等教育機関等との連携を推進していく必要がある。

○地域住民からの情報収集や専門家からの助言を受けつつ，ハザードマップの作成を通じて高校生の中に防災意識が醸成されたように，学校が社会の多様な主体とつながり，連携して活動することによって，生徒の意識や行動に変容が期待できる。

○地域と協働して特色ある学校づくりを進める海部高校の事例は，学校と地域をつなぐコーディネート機能が重要であると示しており，その充実を図るため，当該業務を担う教職員や外部人材同士のネットワークづくりを推進してほしい。

＜考え方及び留意事項－提言（７）について－＞

○学校と家庭，地域社会が連携・協働する学校運営協議会では，学校運営の基本方針の承認や教育活動に対する協議を行うだけではなく，基本方針の実現や共有した課題の解決に向けて具体的な活動を行ってほしい。

○学校運営協議会の委員については，育てたい生徒像を見据えた上で，地元の小・中学校や自治体，また，大学や企業等との連携を念頭に置いた人選を行い，特色・魅力ある教育活動を持続させるための組織的な連携協力体制を構築する必要がある。

○学校運営協議会を基盤とし,委員が持つ経歴や人脈を活かした就業体験活動の充実や,地域の課題解決に参画する学習の広がりなど，地域社会からの協力や学校の教育力の地域還元といった双方向の交流拡大が期待され，参考となる事例については校種を越えて情報共有を図ってほしい。

４　効果的な魅力発信

＜提言＞

（８）特色・魅力ある活動を実際に行う生徒の「生の声」が伝わる生徒主体の広報活動を推進する必要がある。

（９）高校時代に育まれた資質・能力を活かして実社会で活躍している卒業生や，校内外で生き生きと活動する在校生の姿を，ホームページやSNS等で発信し続ける必要がある。

＜考え方及び留意事項－提言（８）について－＞

○紹介のあった県内７つの高校の特色ある取組や生徒の活動については，一般的に知られていない部分もある。本委員会での，生徒の「生の声」による活動の紹介は説得力があり，今後も生徒主体の広報活動を推進してほしい。

○本県も含め多くの都道府県で高校の全国募集を実施しており，どの学校も，ICTを活用したり生徒を前面に出したりしながら広報活動を展開している。広報は各学校でどのような学びができるかを，県内の子どもに示すことを基本的な立場としつつ，各高校の取組を県外にもアピールして全国募集につなげてほしい。

○例えば，別の高校の生徒同士が互いの高校の魅力を取材し，紹介動画を作成するといった生徒主体の取組は，中学生をはじめ視聴する者に高校の雰囲気を伝えるのに有効であるとともに，高校間の交流にもつながる。

＜考え方及び留意事項－提言（９）について－＞

○社会で活躍している卒業生の協力を得て，高校時代に何を学び，何を身につけ，それが実社会でどのように活かされているのかを可視化すると，対外的な魅力発信になるとともに，在校生にとっても刺激になる。

○例えば，ホームページやSNS等で生徒の生き生きとした様子が伝わる写真や動画を発信したり，テレビや新聞等に生徒の活躍や学校行事について積極的に資料提供したりするなど，まずは学校に興味を持ってもらう工夫をすることが重要である。

○徳島北高校生による地域の祭りに参加しての国際交流活動（外国人に対する言語スタッフ）や，小松島高校生による小・中学校に出向いての「生徒授業」（出前授業），また，那賀高校生が校内外を問わず開催している「服活」（服の展示・譲渡会）など，生徒自らが学校を飛び出して活動する姿を見せることが，何よりの広報である。

Ⅳ 取組事例

徳島県立城北高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）＜普通科＞

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）「課題･疑問」を「解決･発見」に変える探究につながる６つの力を育成します。
①メタ認知する力　②統合する力　③調整する力
④思考する力　⑤発信する力　⑥受容する力
（２）部活動，生徒会活動等の自主活動を奨励し，自ら行動する力を育成します。
（３）伝統文化の継承活動等をとおして，徳島をけん引する力を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）多くの科目の授業で，標準よりも多い時数設定をしています。
（２）総合的な探究の時間は「徳島県から考えるSDGs」をテーマに取り組みます。
（３）探究の成果を校内外で主体的かつ積極的に実践・発表します。
（４）一人ひとりの興味・関心に対応した幅広い選択科目を設定します。
（５）出前授業や講演など，地元の大学・企業と連携した教育活動を実施します。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）「為せば成る」の精神で，目標に向かって努力する生徒を募集します。
（２）学問に対する興味・関心が強く，自ら学び続けようとする生徒を募集します。
（３）入学後も学業と部活動の両立に努めようとする生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「徳島ならでは 地域課題に挑戦」

大学や企業等と連携し，地方創生につながる探究活動や伝統文化の継承に取り組んでいます。

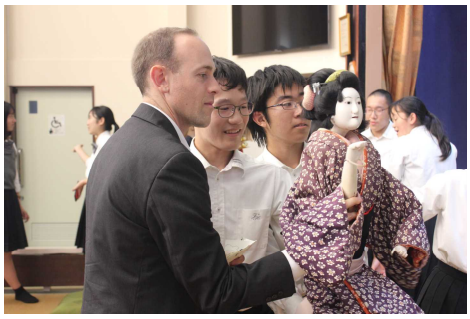
◇徳島駅前の活性化

アンケート調査を実施し，地域活性化に向けた課題を分析しました。その結果を踏まえ，若者をターゲットにした，徳島駅前の活性化に取り組みました。駅前商店街のカフェで親子向けのイベントを開催するなど，総合的な探究の時間を活用し，地域活性化に向けた取組を行っています。

◇地元企業とコラボした商品開発や出前授業

SDGsに関する探究活動に取り組むなかで，自ら設定した課題に応じて，地元企業とのコラボによる商品開発や販売，探究内容を小・中学校に広める出前授業等を行い，それらも通して深く考察し，探究する力を育んでいます。

◇伝統文化の継承



民芸部はプロの人形遣い勘緑さん等を輩出するなど，人形浄瑠璃の継承に貢献してきました。５か国での海外公演や訪問団の受入れなど，国際交流にも貢献しています。

また，若者世代への認知度アップのため，SNSを活用した魅力発信に取り組んでいます。令和３年度には，スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校に認定され，四国大学経営情報学部の大学教員の指導を受けながら，人形浄瑠璃の紹介動画の制作やYouTubeチャンネルの開設にも取り組みました。

＜魅力化キーワード＞　地域との連携　情報発信
＜関連テーマ＞　SDGs　地方創生　伝統文化

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・積極的に知ろうとしない限り知ることができないことが多くあると改めて感じました。次年度は，関心を持てていなかった分野からも課題を発掘できるよう，常に周りの社会問題に気を配りながら生活していきたいです。

・仮説を立てるのは基本的なことを調べてからにしようと考えるようになりました。また，結果から生まれてくる新しい疑問に対しても深く追究していかなければならないと感じました。

・グループでの協働活動を通じて，自分の考えを表明する力や他者の意見を踏まえ納得解を見出す力が育まれています。

・積極的に校内外で公演を行うなかで，幅広い世代の方たちと交流することができ，ささやかでも徳島の文化継承に携われることに喜びと誇りを感じています。

徳島県立徳島北高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）＜国際英語科＞

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）自ら課題を見いだし，主体的に学びに向かう力を育成します。
（２）知識・技能を活用し，他者と協働して課題を解決する力を育成します。
（３）人権を尊重する豊かな心と異文化理解の精神を育成します。
（４）豊かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。
（５）国際的視野を持ち，持続可能な社会の形成に貢献する力を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）ｺｰｽ制（ﾋｭｰﾏﾆﾃｨ[文系]・ｻｲｴﾝｽ[理系]）により進路選択に対応しています。
（２）学校独自の科目『Active Communication』『Global Issues』を設定しています。
（３）全員参加のｵｰｽﾄﾗﾘｱ語学研修やEnglish Dayを実施します。
（４）電子黒板やﾀﾌﾞﾚｯﾄなどICTを積極的に活用した授業を行います。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）高い志と学力を有し，探究心が旺盛で主体的に学ぶ生徒を募集します。
（２）将来，国際社会で活躍しようという意欲のある生徒を募集します。
（３）英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに興味・関心を持つ生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「地域の祭りを元気に 国際交流で地方創生」

県内唯一の国際英語科を有する徳島北高校では，国際交流をとおして地域課題の解決に取り組んでいます。

◇語学力を生かした「おもてなし」

地域の祭りに言語ボランティアとして参加しました。アメリカ，台湾，ベトナム，南アフリカなど，様々な国の出身者が来てくださいました。訪れた外国の方に私たち高校生が英語で案内し，日本の祭り文化を体験していただきました。

◇成功の秘訣は「企画運営への参画」

地域の伝統行事の活性化や外国人との共生社会の実現をねらいとして，英語版のチラシの作成や，伝統文化の体験等，祭りの企画運営にも積極的に参画しています。地元商工会の方と入念な打合せを行い，綿密に計画を練ったことが成功につながりました。

◇生きた英語に触れる機会の創出

学校内で「生きた英語」に触れる機会を提供するため，３人のネイティブスピーカーに加えて，EU加盟国４か国の高校生を受け入れています。

英語をコミュニケーションの道具と感じられる，徳島北高校ならではの取組の１つが「English Day」です。英語圏11か国出身の100名のALTが来校し，"Cultural Presentation"やディベート活動等を行い，異文化理解を深めました。

＜魅力化キーワード＞　地域との連携

＜関連テーマ＞　地域活性化　外国人との共生社会

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・授業で身につけた英語を活用して地方創生に貢献するとともに，訪れた外国人の会場案内や日本の遊び体験の企画をとおして，英語力の向上を図る機会となりました。

・地域に根付いたお祭りの活性化や，異文化理解の促進につながりました。

・学校外で外国人と接する機会が全くないため，どうしても心理的な壁をつくってしまいがちですが，身近なイベントで交流できたことで，徳島に住む外国人に対する確かな意識の変化を感じました。この国際交流の輪を今後もっと広げていきたいです。

・イベントの企画運営を通じて，地域課題を「自分事」として捉え，それを地域住民とともに解決しようとする実行力を身につけることができました。

・地域住民から，「高校生が参加してくれたことで，イベントに活気が生まれた」や，「子どもたちが外国人に親近感を持つことができた」とのお声をいただきました。

徳島県立小松島高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）自分のことを知り，よりよい自分を形成する，自分とむきあう力を育成します。
（２）社会の人との関わりの中で，人を認め，協力し合える，人とむきあう力を育成します。
（３）世界を知り，課題を見つけ，解決へ導こうとする，世界とむきあう力を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）すべての教科で探究的な活動を取り入れています。
（２）「未来手帳(ｷｬﾘｱ･ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ)」を活用し，一人一人の夢の実現を図ります。
（３）部活動や育樹ボランティア活動など，生徒主体の活動を充実させます。
（４）多様な進路目標の実現に対応できるカリキュラムを設定しています。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）小松島高校でチャレンジしようとする生徒を募集します。
（２）コミュニケーション，そして周りの人々を大切にできる生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「松高でつくろう 自分の物語」

自分の物語をつづっていくキャリア・パスポート「未来手帳」や生徒が先生役となる「生徒授業」など，生徒が主体となった活動の推進に取り組んでいます。

◇学ぶ楽しさを実感する「生徒授業」

先生役を務める生徒が自分たちの身近にある，深い学びが潜んでいると思われる授業テーマとその内容を考えるなかで，学ぶ楽しさや，わかる喜びを味わうことができます。

総合的な探究の時間をはじめ，地元の中学校でも「生徒授業」を実施しています。

◇努力を見える化する「未来手帳」

キャリア・パスポートとして，部活動の記録やボランティア活動の記録，資格取得の記録を記入しています。各学期や定期考査の振り返りに活用したり，各種行事や講演会等があった際にも，この手帳にメモを取ったりしています。また，ホームルーム担任とのコミュニケーションツールとしても活用しています。

学校では，学期ごとに手帳コンテストが実施され，他の生徒の模範となる使い方をしている生徒が表彰されています。

◇松高未来のためのまなびプロジェクト

平成29年度に，学校の課題解決に取り組む有志の若手教員を中心としたプロジェクトチームとして編成され，その後，松高の未来を考える組織となっています。

生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するため，生徒授業等の生徒主体の活動や，未来手帳の作成等を行ってきました。また，行事の精選や校務分掌の再編等，働き方改革にも着手するとともに，スクール・ポリシーのもとになった，グランドデザインを策定しました。

＜魅力化キーワード＞　生徒主体の活動
＜関連テーマ＞　主体的・対話的で深い学び　キャリア教育

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・わかる喜び，学ぶ楽しさ，深く考えることの大切さを実感することができました。

・先生役を経験することで，新しい自分との出会いや伝えることの楽しさや難しさなどを体感することができ，自分の可能性を広げることにつながっています。

・未来手帳を活用しはじめてから，どのようにすれば効率的に学習できるかを考えるようになり，成果が上がってきています。また，ボランティア活動等の振り返りによって，自分に自信を持つことができています。

・生徒たちは，学びの追究や自己実現に向けて，主体的に取り組むようになっていると感じられます。

徳島県立那賀高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）＜普通科＞

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）高校卒業後や３０年後を考えて行動できる将来設計力を育成します。
（２）将来につながる資格を取得し，自己の未来を切り拓く行動力を育成します。
（３）自己の考えを伝え，相手の考えを聴く協働力と社会性を育成します。
（４）資格や技術をもとに地域社会に貢献できる実行力と頑張る力を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）大学進学対応や福祉・情報の授業がある３つのコースを設定しています。
（２）将来を見据え，自己理解を深めるため大学等講義体験やｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟを実施します。
（３）小規模を強みとして一人一人の夢に寄り添う個別対応教育を実践します。
（４）高校での学びとｽﾑｰｽﾞにつなげるため，那賀町内の中学校と連携しています。
（５）普通科と農業科（森林ｸﾘｴｲﾄ科）が共に地方創生を学ぶ取組を実施します。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）他者を大切にする気持ちと公共心を強く持った生徒を募集します。
（２）宿題や予習・復習など日々の学習に丁寧に取り組んできた生徒を募集します。
（３）部活動や生徒会活動などに熱心に取り組んできた生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「使われていない衣服を復活 服活」

平成29年度に設立されたエシカルクラブでは，地域や企業との連携のもと，使われていない衣服を回収し，新たな命を吹き込む「服活」活動に取り組んでいます。

◇使われていない衣服に新たな命を

回収した衣服は地域の施設等で展示し，必要な方に譲渡しています。「素敵な活動ですね」というお客様の言葉がとても励みになっています。

阿南市で行われる「あなんまちマルシェ」には第１回目から参加しており，今では看板ブースとなっています。

◇地域に広がるエシカルの輪

服活活動に協賛してくださる企業等も増えてきています。服の回収では町内の「こども園」，「阿南市役所」など，長期展示では「富岡公民館」に協力していただいています。

また，「阿南ファミリーサポートセンター」とともに子ども服の交換会を定期的に行うなど，地域にエシカルの輪が広がっています。

◇相生晩茶染めマスクの提供

那賀町相生地区では，晩茶が有名であり，毎年，茶摘み体験を行い，茶のつけ込み液を利用した晩茶染めマスクを作成しています。

地元の晩茶で染めたガーゼマスクを，近隣の高齢者施設に提供したり，各種イベントで配布したりしています。

＜魅力化キーワード＞　地域との連携
＜関連テーマ＞　SDGs　エシカル消費

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・様々な方と接する機会が増え，人前で話すことが苦手なタイプであった生徒等が，自分の性格が明るくなり，コミュニケーション能力が向上したと感じています。

・多くの方がこの活動を知り，服の譲渡に来ることによって，学校のことを知ってもらえる機会にもなっています。

・生徒たちは，活動を通じて自分の意識が変化し，地域社会や環境に配慮できる存在となれたことに喜びを感じています。

・2021年度第７回ACAP消費者志向活動表彰において，全国の高校では唯一の「選考委員奨励章」を受章することができました。

・次代を担う若い世代のESD（持続可能な開発のための教育）が大切であると考えています。近隣のこども園や小・中学校に出向き，本校の活動を紹介するとともに，エシカル活動に協働して取り組んでいきたいです。

徳島県立海部高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）＜普通科＞

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）あいさつや礼儀を大切にし，人に愛される豊かな人間性を育成します。
（２）自ら課題を見つけ，主体的に課題を解決していく力を育成します。
（３）夢と志を持ち，自己実現に向けて困難に打ち克つ力を育成します。
（４）学習習慣の定着を図り，主体的に学ぶ態度を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）２年生から自然科学コースと人文社会コースを設定しています。
（２）英語のスピーキング力を伸ばすため，オンライン英会話を実施します。
（３）通信映像講座，学習支援ｸﾗｳﾄﾞｻｰﾋﾞｽによる学習支援を実施します。
（４）総合的な探究の時間は「地域の教育力を生かしたSDGs」に取り組みます。
（５）グローバル感覚を養うため，「海外語学研修」を設定しています。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）積極的に学習に取り組み，関心ある分野を探究できる生徒を募集します。
（２）自らの将来を見据えた進路選択に向け，努力を惜しまない生徒を募集します。
（３）周りの人と協働し，行動できる生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「豊かな地域資源を活かして地域学習『海部学（あまべがく）』」

県内外から集う仲間とともに，「SDGsを軸とした地域学習（海部学）」や「起業体験」など，多様なニーズに対応した教育活動を行っています。

◇地域の人から学ぶ

海陽町の豊かな自然や文化を地域の人から学んでいます。地域を生きた教材として活用し，地域の人々との交流による豊かな学びが実践されています。ふるさとを愛する心，将来の地方創生を担う実践力が着実に育まれています。

◇地域の魅力をPR動画で発信

映像のプロを講師としてお招きし，海陽町をPRする動画を作成しています。SDGsの11番目の目標である「住み続けられるまちづくりを」をメインテーマにしつつ，取材先の方が取り組む目標を併せて紹介する形でまとめ，YouTubeで公開しています。

また，学校の魅力についても，県内及びオンライン県外説明会等で，生徒自らが積極的に発信しています。地元をはじめ，県外からも若者が集いはじめています。

◇遠隔教育システムを用いた授業や特別講座

徳島中央高校からの配信による遠隔授業や，遠隔教育システムを利用した大学教授による特別講座を実施しています。

ICT機器や学習支援アプリケーションを効果的に利用することで，遠隔授業でも十分な学習効果を得ることが期待できます。

＜魅力化キーワード＞　地域との連携　情報発信
＜関連テーマ＞　SDGs　地方創生

海部高校PR動画

～生徒や教員等の声～

・地域の方々から学ぶことで，地域の魅力や課題をより身近に感じることができ，主体的に課題を解決していこうとする態度が身についています。

・「海部郡内の中学３年生」の数は減少しているが，「郡内からの入学生」の割合は増加し，「県外からの入学生」の数もこの４年ぐらいで増加しています。今後も県内外に向けて，さらなる魅力発信が必要であると考えています。

・授業支援アプリケーションの活用で，遠隔授業においても情報共有が容易になり，お互いの意見に触れることで自らの考えが深まり，遠隔授業でも対面授業と同等の学習効果がみられ，ICT活用の可能性を実感しています。

・オンライン英会話を導入してから，英検合格者の増加や，英語弁論大会の全国上位入賞といった成果が出ています。今後は，米国カリフォルニア州立マーセッドカレッジとの協定締結による教育体験や文化体験等からグローバル感覚を養う必要があると考えています。

徳島県立鳴門高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）「夢をかたちに」するために，常に自ら学び続ける力を育成します。
（２）グローバルな視点を持ち，社会の一員として行動できる力を育成します。
（３）ICTを効果的に活用し，地域の課題を探り解決策を考える力を育成します。
（４）「生きる力」を育み，自他の命を尊重する，豊かな人間性を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）鳴教大教員の講義や院生の個別指導「Miraiサポート」を実施します。
（２）鳴門市のドイツ姉妹都市の高校生訪問等，継続した国際交流を毎年実施します。
（３）「清掃ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動」や「地域学撫養街道を歩く」等ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸを実施します。
（４）学校独自の科目『ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学特講』や『ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ』等を設定しています。
（５）総合的な探究の時間は「地域の活性化につながる取組の提言」を行います。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）深い学びに関心を持ち，鳴教大連携講座に意欲的に参加する生徒を募集します。
（２）異文化理解や国際交流に積極的に取り組む生徒を募集します。
（３）郷土の文化や伝統を大切にし，地域の活性化に取り組む生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

「NARUTO MIRAI PROJECT」

地域の一員として，地域の魅力を探り発信するとともに，課題を探り，地域の活性化やよりよい町づくりに向けた取組を行っています。

◇フィールドワーク「撫養街道を歩く」

なると観光ボランティアガイド会の方々の御協力をいただき，岡崎海岸から岡崎・弁財天地区を歩くフィールドワークを実施しました。

約25名のガイドさんからクイズを交えた説明を聞きながら，約15か所の名所を巡り，地域の魅力を実感することができました。

◇安全・安心は地域の魅力

鳴門市が開設する「生涯学習まちづくり出前講座」の防災に関する講座を受講し，その内容も踏まえて，地域や学校周辺の安全性について探究を行いました。安全性が保障できれば，撫養街道のような名所を災害から守ることもできます。安全・安心であるということは地域の魅力にもつながります。

総合的な探究の時間においては，地域の一員として，１年次では，地域（鳴門）の魅力を探り，その魅力を発信し，２年次では，地域（鳴門）が抱える課題を探り，活性化や町づくりに関わる取組について提言することを探究課題としています。

◇学校運営協議会の活用

学校運営協議会委員が地域との窓口となり，協働活動が円滑にスタートしています。

委員の方々による講座等は次のとおりです。

・委員対象の研修「コミュニティ・スクールについて」
・生徒対象講座「エシカル教室」（右写真）
・委員とラグビー部員による鳴門市内の小学校での放課後ラグビー教室への参加　等

＜魅力化キーワード＞　大学や自治体，地域との連携
＜関連テーマ＞　地域活性化　歴史　防災

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・岡崎が阿波の玄関口となったことや撫養街道の出発点となったことなど，普段気にせずに通っている道に多くの歴史があることを知り，地元鳴門に誇りを持ちたいと考えるようになりました。

・各年次ごとの成果発表会では，鳴門教育大学・鳴門市教育委員会・鳴門市役所の方々から，「行政は若い世代の意見や視点をもっと取り入れなければならない」や，「若い世代の方にも参加していただいたらもっとよい町になる」などの御意見をいただきました。

・大学や自治体，地域等との連携により，地域の魅力や地域が抱える課題を知る良い機会となり，地域への貢献意識が醸成されています。

・課題発見力や課題解決力，協働的に学ぶ力の育成につながっています。

徳島県立脇町高等学校

学校ホームページ

○スクール・ポリシー（抜粋）

【育成をめざす資質・能力に関する方針】
（１）確かな学力と，主体的に学ぶ力を持った生徒を育成します。
（２）物事を科学的・論理的に考え，表現する力を育成します。
（３）知識を多面的に活用し，新たなものを創り出す力を育成します。
（４）公共心や社会性を持ち，協働できる力を育成します。

【教育課程に関する方針】
（１）大学進学に適したカリキュラム設定により，進路実現を支援します。
（２）グループワーク等の協働的な授業展開を全教科で実施します。
（３）SDGsを前提とし，課題解決に向けた探究活動に取り組みます。
（４）SSHコースでは『探究科学Ⅰ・Ⅱ』を特設し，課題研究に取り組みます。
（５）大学や企業，NGO，行政機関等と連携した実践的な学習活動が豊富です。

【入学者の受入れに関する方針】
（１）本校の多様な学びに積極的に取り組むことができる生徒を募集します。
（２）社会や地域に関心を持ち，貢献したいという意欲を持つ生徒を募集します。
（３）多くの人と協働し，失敗を恐れず挑戦できる生徒を募集します。

○スクール・ポリシーに基づく活動

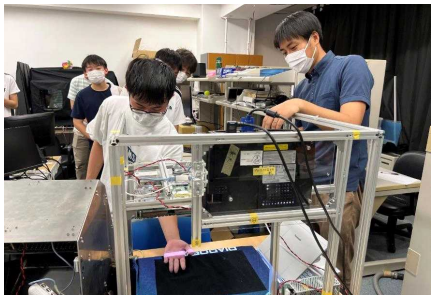
「高大連携 最先端技術を体感」

SSH指定校として，大学や自治体等との連携を推進し，プログラミングやAI等の最先端技術を体感する研修，IoTやAIを用いた課題研究に取り組んでいます。

◇課題研究の基盤となる科学的思考力の育成

脇町高校では，課題研究を実践する上で求められる汎用的資質・能力を「SW-ingSLC」（科学的思考力）と定義しています。その力を全生徒に育成することを目的として，１年次より，全教科科目での協働的問題解決型学習や，RESAS（内閣府：地域経済分析システム）を活用した地域活性化に関する課題研究に取り組んでいます。

◇東京大学AI研修



AIの活用方法や最先端のロボットについて学ぶとともに，ディスカッション等を通して，新しいアイデアを創出する方法を体験しています。

超音波を利用した触覚体験や，SyncUpというアプリケーションによるダンス動画のシンクロ率の解析等を行い，AIは身近なツールであると再認識できました。

この研修は，本校OBである東京大学教授の協力を得て実施しています。

◇IoTやAIを用いた課題研究

土壌水分センサー（白い機械）

世界農業遺産である「にし阿波の傾斜地農耕システム」において，土壌流出を防ぐために農地に投入されるカヤの保水性に着目し，企業との連携のもと，伝統農法の効果の検証に取り組みました。

遠隔地にある農地に設置した土壌水分センサーからリモートセンシング技術を用いてデータを収集し，その保水性の高さを立証することができました。

＜魅力化キーワード＞　大学や自治体との連携
＜関連テーマ＞　イノベーション

取組発表の様子はこちら

～生徒や教員等の声～

・最新の技術を目の当たりにして，AIの利便性を実感することができ，将来，この分野で仕事を頑張りたいという明確な目標を持つことができました。

・いろいろな人と触れ合う機会が増え，自分の考えの幅を広げる良い機会となっています。

・伝統農法の検証や獣害被害対策の罠の作成等，実際の地域課題に取り組むことで，社会に貢献する意識の向上につながっています。

・卒業生意識調査では，「他者と協働する力」「課題を発見する力」「情報を処理・分析する力」「実験に関する基礎知識・技術」「発表スキル」の項目について，「大学や社会において重要であり，高校時代に身についた」と多くの卒業生が回答しています。

・第４回全国高校生社会イノベーション選手権「イノベーション編」においては初出場で優勝するなど，課題発見力・政策提案力の育成の面で一定の成果を残すことができています。

資料１

徳島県公立高等学校魅力化推進委員会設置要綱

（設　置）
第１条　徳島県公立高等学校の特色化・魅力化推進に向けた取組の検討を行うことを目的として，「徳島県公立高等学校魅力化推進委員会」（以下「推進委員会」という。）を設置する。

（検討事項）
第２条　推進委員会は，次に掲げる事項について検討を行う。なお，検討結果については，徳島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告するものとする。
（１）公立高等学校のスクール・ポリシーに基づく教育活動の推進方策
（２）公立高等学校の普通科を中心とした特色化・魅力化に向けた取組等

（委　員）
第３条　推進委員会は，委員１１名以内で組織する。
２　委員は，学識経験者，行政関係者及び学校関係者のうちから，教育長が委嘱する。
３　委員の任期は，第２条に掲げる報告が終了するまでとする。
４　欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（会　長）
第４条　推進委員会に，会長１人及び副会長１人を置く。
２　会長及び副会長は，委員の互選によって定める。
３　会長は，推進委員会を代表し，会議の議長となる。
４　副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるとき，又は会長が欠けたときは，その職務を代理する。

（会　議）
第５条　推進委員会の会議は，会長が招集する。
２　推進委員会の会議は，委員の半数以上の出席がなければ，開くことができない。
３　会長は，必要があると認められるときは，委員以外の者に出席を求め，意見若しくは説明を聴くことができる。

（庶　務）
第６条　推進委員会の庶務は，徳島県教育委員会教育創生課において処理する。

（その他）
第７条　この要綱に定めるもののほか，推進委員会の運営に関し必要な事項は，会長が別に定める。

附　則　この要綱は，令和４年７月２９日から施行する。

資料２

徳島県公立高等学校魅力化推進委員会委員一覧

氏　名	役　職　等
会　長　坂 本 有 芳	鳴門教育大学大学院学校教育研究科　教授
副会長　坂 田 千代子	株式会社あわわ　会長
市 岡 沙 織	市岡製菓株式会社　代表取締役社長
大 杉 雅 一	徳島市名東郡PTA連合会　副会長
大 西 浩 正	特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート　理事長
先 田 仁 美	徳島県PTA連合会　会長
霜 田 泰 徳	阿南市立阿南中学校　校長
瀬 尾 陽 子	徳島県高等学校PTA連合会　副会長
竹 内 明 裕	三好市教育委員会　教育長
福 谷 あずさ	ケーブルテレビ徳島株式会社 コンテンツ事業部編成グループ　係長
湊　雅 邦	徳島県高等学校長協会　会長 徳島県立城ノ内中等教育学校・高等学校　校長

※会長，副会長以外は50音順　敬称略